

富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携した シルクカンントリー桐生の推進について（継続）

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、富岡製糸場、高山社跡、荒船風穴、田島弥平旧宅から構成され、群馬県の絹産業を紡ぐ一連のストーリー性を持つ登録遺産であります。2014年の登録から8年が経過した現在も、富岡製糸場では国宝「西置繭所」の保存修理が施され多目的ホールとして活用されるなど、構成施設を中心に本県の絹産業の歴史や文化の発信に努められております。

桐生市は構成資産から外れていますが、日本の近代化に大きく貢献し世界に進出した民間の繊維産業都市として官営の富岡と対比される重要な絹文化、絹産業の集積都市であります。

桐生市からの提案によりまして、世界遺産と本市を結ぶ旅行コースも商品化されていますが、引き続き「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」やノコギリ屋根工場などの県内最多を誇る貴重な絹産業遺産を核とする観光誘客のための周遊コースを策定するなど、富岡製糸場と連携した織物の街・桐生を全国に発信するシルクカンントリー桐生を推進すると共に、富岡製糸場への来訪者増につながる各種施策の構築を要望いたします。

桐生市からの回答

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録は、本市の観光振興にとっても最良の機会として捉え取り組んでおります。

本市では、令和2年度の日本遺産活用室の開設後、本市にある日本遺産「かかあ天下一ぐんまの絹物語ー」の構成文化財6件の周知や活用について更に積極的な取り組みを進めております。

令和4年度から新たな日本遺産認定都市であります八王子市との連携が始まり、7月には、八王子市のNPO法人おもてなし国際協議会の主催イベント「絹に願いを！」が開催され、桐生市、富岡市、八王子市のパネリストによるトークセッションが行われるなど、民間レベルのつながりもできてきました。

また、日本遺産を観光振興等へ効果的に活用するため、近隣の日本遺産の認定都市である館林市や足利市と連携し、3市長によるシンポジウムを令和2年度より開催し、今年度は足利市で開催を予定しています。

今後も、世界遺産と関連のある貴重な絹遺産を核に、産業観光による誘客等を図ることで地域経済の発展に努めてまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部日本遺産活用室日本遺産活用担当